

総社市立阿曾小学校 いじめ防止基本方針

令和8年3月 改定

いじめに関する現状と課題

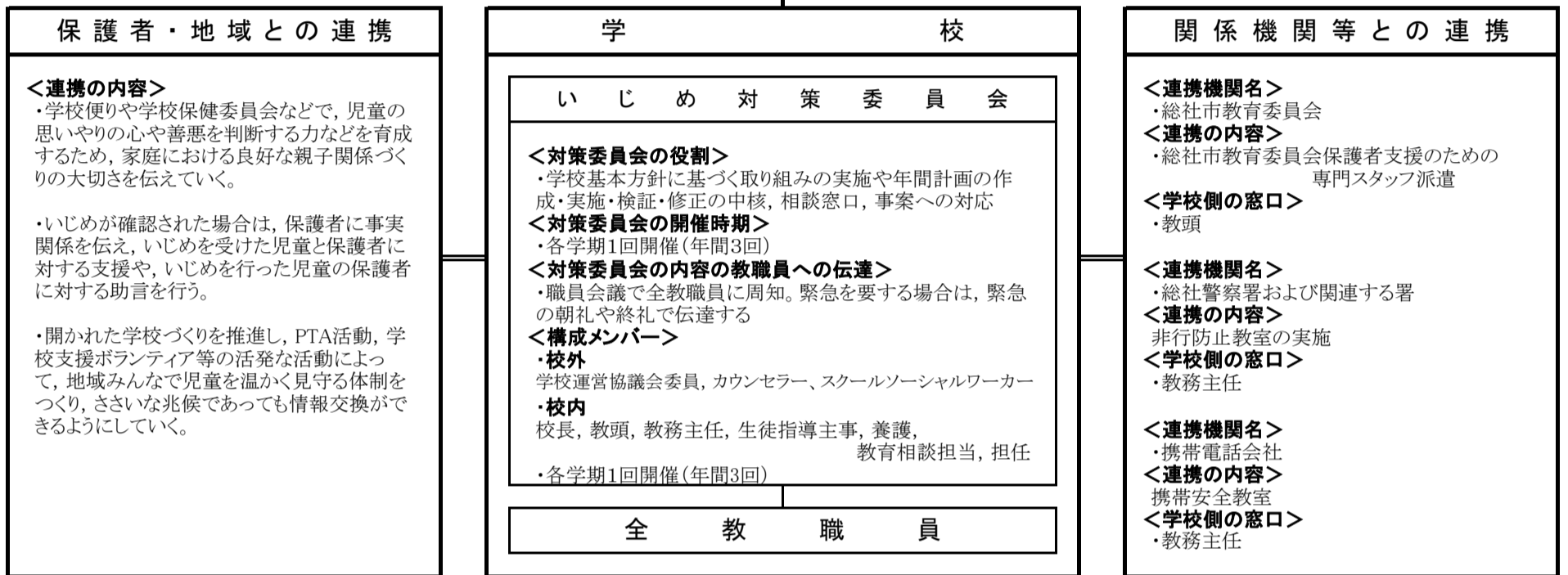
・令和7年度はいじめ認知による報告件数は13件であった。令和6年度は20件の報告があり、大きく減っている。認知が多かった学年が落ち着いたことによるものである。この数字はあくまで令和7年度に限った数字であり、前年度以前から引き継いでいる人間関係等の根本的な問題の解決・解消には至っておらず、見守りを続けているケースが多い。本校では、各学年単学級という環境で6年間同じメンバーで過ごすため、固定化された人間関係の中で、慣れ合いが生まれ、相手の苦痛に気付いていないケースが多く見られる。
・学年や性別に関係なく、異学年で遊ぶ姿が日常的に見られる一方で、上級生と対等であるかのような言動をとる下級生もおり、個人的に指導をすることも少なくない。
・学校全体で児童の様子を把握し、全職員共通理解のもと、未然防止の取組を行っていく必要があり、そのための研修等も引き続き必要である。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

・いじめは「どの子にも、どの学級にも起こりえる」「だれもが被害者にも加害者にもなりうる」と認識することを基本とし、児童が安心して学習その他の活動に取り組めるために、認め合い、支え合い、高め合いのある人間関係を築き、いじめの起きない風土づくりに努める。
・いじめの兆候や発生を見逃さず、迅速かつ組織的に対応するために、いじめに対する認識と児童の変化の情報を全教職員で共有し、早期発見・対応に取り組む。
・いじめと疑われる行為を発見した場合は、「いじめは決して許さない」という毅然とした姿勢を示し、組織的に対応する。

<重点となる取組>

- ・自己有用感や自己肯定感を感じられる学校づくり（縦割り班活動、一人一役当番活動、委員会活動、協同学習、ピアサポート、SEL）
- ・落ち着いた学習環境の確立（校内研究・学力向上プロジェクトとの連携、校内委員会との連携、人権教育の充実）
- ・いじめの早期発見・対応（毎月の友達アンケート、教育相談、全職員による毎週の情報交換会）



学 校 が 実 施 す る 取 組

① 未 然 防 止	<p><自己有用感や自己肯定感を感じられる学校づくり></p> <ul style="list-style-type: none">・1年生から6年生の児童が混じった縦割り班をつくり、年間を通して縦割り掃除を行うと共に、縦割り遊び等を実施する。上級生は下級生の世話をし、行動の模範を示すことで、自分の役割を意識し、下級生は上級生に温かく接してもらい、よりよい模範的な姿を学べるようにしていく。・各学年では一人一役の当番活動ができるように計画し、委員会活動では常時活動の充実と共に各委員ごとに取り組むなど、どの児童も責任のある役割をもち、自信をもって生活ができるようにする。 <p><落ち着いた学習環境の確立></p> <ul style="list-style-type: none">・「わかる」「できる」授業づくりに努めると共に、協同学習やピアサポート活動を配置しながら、どの児童も安心して学習ができるようにする。また、落ち着いた学習ができるように、6年間を貫く学習規律を確立し、みんなで考えられるような温かい学級、学校づくりをしていく。・道徳や学活の時間を中心に、SEL等の学習を通して、自分だけでなく相手の気持ちも考えるような場面設定をし、正しい判断ができる心を育てていく。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none">・学級活動等で、インターネットや携帯電話の危険やモラルについて児童に指導すると共に、「非行防止教室」「携帯安全教室」に保護者も参加できるようにし、学校と家庭が足並みをそろえて児童に対することができるようにする。また、学校保健委員会を開催し、保護者・教職員の人権意識を高め、家庭教育のあり方を学習できるようにする。
② 早 期 発 見	<p><児童から></p> <ul style="list-style-type: none">・全児童に対してともだちアンケートを毎月実施し、GIGAパソコンを使った教育相談を随時受け付けるなど、児童の様子や変化について情報収集をする。また、毎学期に1度、全児童対象に教育相談（ほっ！とタイム）を実施して、児童の生活の様子を把握し、いじめの早期発見に努める。 <p><教職員から></p> <ul style="list-style-type: none">・日頃から普通教室をはじめ、特別教室、くつ箱、掲示物等の整頓を心がけ、落書きや紛失などがないか個人の持ち物へも注意を払い、あればすぐに対応して原因を明らかにする。・毎週末に教職員で児童に関する情報交換会を行い、軽微な問題行動であっても、「将来いじめになるかもしれない」の共通認識の元、注意深く観察をしたり、個別指導をしたりしていくと共に、家庭へも連絡をする。 <p><保護者・地域から></p> <ul style="list-style-type: none">・年間3回の個人懇談（全保護者対象）を行い、家庭での児童の様子と学校での児童の様子を情報交換することで、いじめの早期発見に努める。・家庭と連絡を密にとり合い、児童の心身の状態を把握するようにしていく。欠席が3日続く場合には、状況により家庭訪問を行う。・学校評議員、学校支援ボランティア、学童クラブ指導員、民生委員等と連絡をとり、校外での児童の様子について情報を収集する。
③ い じ め へ の 対 処	<p><いじめの有無の確認></p> <ul style="list-style-type: none">・本人や周辺からの聞き取りをし、身体的・精神的被害についての的確に把握し、迅速にいじめの事実の有無と実態を確認する。 <p><いじめへの組織的対応の検討></p> <ul style="list-style-type: none">・いじめへの組織的対応を具体的に検討するため、速やかにいじめ対策委員会を開催する。 <p><いじめられた児童への支援></p> <ul style="list-style-type: none">・つらく苦しい気持ちに共感し、授業時間だけでなく、休み時間や登下校の際も教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。・保護者へは、いじめの問題解決に向けた学校の方針を伝え、理解を求め、協力を要請する。状況に応じて、心理や福祉の専門家の協力を得ながら、いじめられた児童に寄り添い、きめ細かく対応する。 <p><いじめた児童への指導></p> <ul style="list-style-type: none">・「いじめは許さない」という毅然とした態度で臨み、事実を確認しいじめをやめさせる。また、いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。・保護者へは事実を伝え、冷静に我が子と確認するとともに、事の善悪について家庭での指導を促す。被害児童・保護者に対して適切な対応（謝罪等）をするよう依頼する。 <p><周辺児童への指導></p> <ul style="list-style-type: none">・傍観することはいじめに荷担することと同じであること、いじめられた児童の苦しみを理解させる。友達の言いなりにならず、正しい判断で行動する大切さに気づかせる。 <p><事後の指導></p> <ul style="list-style-type: none">・いじめ解消後も継続観察をし、安心して学校生活が進むように見守る。